

広報 にしお NISHIO



特集 Special feature

私のママはまちのヒーロー

女性消防団員という選択



特集 Special feature

私のママは まちのヒーロー

女性消防団員という選択

火災や災害が起きたときに、人命や財産を守るために活動する消防団では、多くの女性団員が活躍しています。そんな彼女らは、私たちのまちを守るヒーローなのです。

ある日曜日の朝。機能別消防団員の神原真紀さんの活動服姿を見ながら、娘の綾音さんが絵を描いています。程なくして完成した絵を「ねえ見てママ。これママだよ」と、満足気に渡す綾音さん。描かれている家族は、まるで絵本の登場人物のような満面の

そもそも「消防団」ってナニ？

消防団は、その地域に住んでいる方が、火災や水害などの有事に集まって消火や救助活動などを行う組織。団員は非常勤の公務員として扱われます。消火や救助活動など消防隊と同じような活動をする「基本団」と、大規模災害時の出動が想定されている「機能別消防団」があり、各団の入団条件を満たせば、誰でも入団できます。

消防隊と消防団の違いは？

消防隊は消防や救急を職務としている、消火活動や救命活動の専門家。一方、消防団は、民間企業で働く方などが有志で活動しています。火災や災害では、いかに早く消火・救助活動を開始できるかがとても重要。消防隊が到着するまでに、地域にいる消防団が活動を始めることで、被害を最小限に食い止められるのです。

団の大切さを伝えたい

機能別消防団に入団して約5年経ち、団員として、火災予防の啓発活動やAED講習会などを行っています。私は小さい子どもがいるので、参加できる日時は限られていますが、可能な範囲で活動しています。

娘が、団員として活動する私の姿を見てくれていて、その絵を描いてもらえてとてもうれしい。まだ幼いので難しいかもしれませんが、娘や同い年くらいの子どもたち、その保護者の方にも消防団の大切さを伝えていきたいです。

榊原 綾音さん 真紀さん



まだまだいき。
しょうぼうとおしごとがんばってね。
いつもありがとう。

笑みを浮かべています。

かっこいいママ、大好き

「ママが何をしている人か分かる？」と綾音さんに尋ねると「消防の人！」と弾むような声で答えます。以前、自分の通うこども園で、防災教室の先生をする母の姿を見ていた綾音さんは「ママがかっこいい。大好き」と言葉を続けます。母としても、消防団員としても、冥利に尽きる言葉を耳にした真紀さんの目は、少し潤んで見えます。





世界が広がる、私が見つかる

消防団には多様な価値観を持った人材が集まります。
そんな人たちとのコミュニケーションを通して、新しい自分に気付く。
もしかしたら、消防団が新しいあなたの居場所になるかもしれません。

榎

原さんが所属する機能別消防団女性分団には、20代から60

代まで、さまざまな年代の方が所属しています。女性という共通点を除けば、住んでいる場所や人生経験も、価値観も全く違います。それでも共通の目的や気持ちを持っている仲間なので、団員同士の仲は良く、コミュニケーションも活発に行われています。

活動の合間にする何気ない会話が何よりも楽しいと語る榎原さん。「みんなが集まったときの話題は、育児の悩みから最近の流行まで、毎回違います。私が知らない話を教えてもらったり、逆に私が教えたり。おかげで世界が広がります」と笑顔を見せます。未婚の団員が結婚相談をすることもあり「みんなの意外な一面を知れて楽しい」そうです。

誰かの居場所に

消防団に入るきっかけは人それぞれ。入団している家族に誘われたり、テレビ番組を見て興味を持ったりと、千差万別です。

榎原さんが入団したのは、すでに入団していた姉に誘われたからで、すでに「子どもが生まれて、前の仕事



できる範囲で

を退職したら、何となく社会とのつながりがなくなってしまった気がしたんです。そんなときに、姉が『子育てしながらでも、自分のペースで参加できるよ』って誘ってくれて」と榎原さん。消防団は、榎原さんを孤独感から救ってくれる居場所になりました。

消防団活動が続けるには家族の協力が不可欠です。幼い子どもがいる榎原さんも、活動で家を空ける際は近所にある夫の実家に子どもを預けるそう。「嫌な顔もせず協力してくれる家族には、感謝してもしきれない」と語ります。どうしても活動に参加できないこともあります。「団員みんなは、事情を理解して



尾崎 百合江さん

くれる。できる範囲で活動すればいいので、とても気が楽なんです」と、精神面での負担の少なさを教えてくれました。

それぞれの個性を生かして

消防団に入る際は、自身の住む近くの団に入団するのが一般的。しかし、機能別消防団女性分団は住んでいる場所に関係なく入団できます。

同分団長であり、女性消防クラブの活動も長年続けている尾崎百合江さんは「みんな住んでいる場所も年齢もバラバラ。でも、それぞれの個性を生かして活動しています」と語ります。例えば、国際交流のノウハウを持っている団員が、外国人向け



救命講習の前に談笑する女性団員ら



こども園で園児に防火講習をする団員

の救命講習を企画したり、消防職員などとながりを持った団員が、消防隊と消防団との橋渡し役を担ったりしています。「みんなが自分の得意なことを生かして活躍してくれている」と、うれしそうに語る尾崎さん。各自がやりがいを持って活動できるのも、消防団の魅力の1つなのです。



これからの消防団には多様性が不可欠

今までの消防団は男性中心で活動していました。しかし、近年は価値観が多様化してきています。そんな時代の流れに合わせた活動を続けていくには、女性ならではの視点やアイデアが不可欠です。

消防団は、みなさんの持つ個性や特技を生かして活動できます。多様性が求められる社会に対応するためにも、多くの方に消防団活動に参加してもらいたいです。

市消防本部消防総務課 神取 健 主任主査



左から 音部 莉菜さん 尾崎 三枝子さん 尾崎 未佳さん

「守りたい」キモチは同じ

男性団員と共に訓練に励む女性団員
「自分たちの住むまちを、自分たちの力で守りたい」
その思いに男女の違いはありません。



「ホースをこっちに置いた方が、肩がぶつからなくて、うまく動けるんじゃない？」と、明るいう口調で訓練の改善方法を提案しているのは、一色中部分団の尾崎三枝子さんです。この日、訓練に参加した女性団員は三枝子さんを始め、その娘の未佳さん、音部莉菜さんの3人。普段から他団員への気遣いや心配りで、団の活動を支えています。分団長の高橋俊樹さんは「女性団員がいるおかげで、訓練の場が和やかになるんです。それに、私では気付けない細かな点に気付いて、何気なくフォローしてくれる。彼女らの存在は団に不可欠です」と語ります。

自分にできることに取り組めばいい

3年前、女性が初めて入団すると聞いたときは、体力面や団の雰囲気になじめるかなど「大丈夫かな」と不安もありました。でも、一緒に活動を続けてきて、今はそんな気持ちは全くありません。

自分にできることには、精いっぱい取り組めばいいし、できないことは仲間と協力すればいい。まちを守りたいと活動している私たちは、同じ一色中部分団の仲間です。

一色中部分団 高橋 俊樹 分団長





できないことは仲間を頼る

一色中部分団の活動には消火活動なども含まれるため、女性にとっては体力面などで大変なこともあります。それでも「まちを守るのに性別は関係ないのになって。確かに身長とかは男性には及ばないけど、私には私にできることがあるし、できないことは仲間を頼ればいい」と末佳さん。その言葉からは、人の命を守る活動を通して培われた、確かな自信と仲間への信頼が垣間見えます。

かけがえのない時間を共に

一色中部分団の活動任期は基本的に



5年で、任期が終われば退団します。三枝子さんは「みんなが良くしてくるから、活動が楽しくてあっという間に時間が過ぎた。まだ残りの活動期間は半分くらいあるけど、早くも名残り惜しい」と笑顔で語ります。また、昨年11月に入団した音部さんも「もう半年以上たったのかと驚きます。みんなが初心者なのに優しく接してくれるので、本当にありがたい」と、団員たちへの感謝を口にします。

志を同じくする仲間たちと過ごす時間はかけがえのないもの。そこで得た経験は、まちを守る力になるだけでなく、きっと、その後の人生を豊かにしてくれるはずです。



私なりのエールを送る

「消防団応援の店」を知っていますか？

消防団の活動には参加できないけれど、応援ならできる。

その思いは、確かに団員の心の支えになっています。

現在、市内の約120店が登録。追加登録を随時募集しています。店の情報やサービス内容など、詳しくは下のコードで確認できます。



消 防団応援の店は、団員やその家族が訪れた際、割引や粗品進呈などのサービスをする店です。応援の店には、まちに根付いた個人商店などが多数登録しています。応援の店は、消防団OBが経営する店や従業員の家族が現役消防団という店もありますが、消防団員とほとんど縁のない店もあります。そんな応援の店の共通点は、まちを守るために、日々活動を続ける消防団員への「感謝の気持ち」。応援の店に登録することで、団員への思いを表しているのです。

VOLUNTEER FIRE CORPS SUPPORTING VOLUNTEER FIRE CORPS SUPPORTING VO



天野農園 (吉良町)

消防団長を務めたこともある店主が作るトマトは、そのままでも、ジュースにしても絶品。リピーターも多い、人気トマト農園です。



天野 正巳さん



美容室アクトン (徳次町)

笑顔の素敵なスタッフが出迎えてくれる、地域で愛される美容室。常連客の消防団員もいます。

※現在は応援の店サービス一時休止中



大門 花小里さん



CAFE&PUB アリス (桜木町)

スタッフのお子さんが消防団で活躍中。しっかりと落ち着いた雰囲気の店内で、ランチやコーヒーを楽しめます。



左から 山口 とも子さん
林 志保子さん 岩瀬 清美さん



あなたがまちを守るから

消防団員として活動する人が身近にいと
「何かあっても、きっと大丈夫」。そんな風に思えるはず。
消防団員がいるから、私たちは安心して暮らしていけるのです。

女性団員が増えると

災 害などが起こったとき、自身だけでなく、家族を守りたいと思う人は、とても多いはず。では、実際にそれができるかといわれたら、どうでしょうか。災害はいつ起こるか分かりません。仕事で家族と離れているときや、旅先など土地勘のない場所にいるときに起こるかもしれません。そんなとき、自分や家族の近くに消防団員がいてくれると考えてみてください。「きっと、大丈夫」そう思えるのではないでしょうか。

近年は生活のさまざまな面で、性別にとられない選択ができるようになってきました。しかし、まだまだ全てが同じ、というところには至っていません。消防団も「男性がやるもの」という慣習があった経緯から、今でも男女の比率がかけ離れており、男性が9割以上を占めます。女性消防団員が増えるのは、過去の考え方にとられない、新しい価値観が広がっていくことにつながります。また、単に女性が活躍する場が広がるだけでなく、以前は「女性がやるもの」という慣習があった、



①miraiと～ぶこども園で行った防火教室後の記念撮影 ②夏祭り子どもに啓発品などを配布 ③5年9月の消防団技術発表会では女性団員だけで訓練を披露 ④防災訓練で外国人住民にAEDの使い方を説明

消防団員を募集

対象 市内在住・在勤の18歳以上
申し込み 入団届を市消防本部消防総務課へ。入団届は同課、市ウェブサイトでも手可
その他 詳しくは右のコードで確認可



消防団技術発表会

日時 10/20(日) 10:00～13:00
 ※少雨決行
場所 一色B & G海洋センター駐車場
内容 消防団員による技術発表、キッチンカー出店、消防服で記念撮影、缶バッジ作りなど

問い合わせ先 市消防本部消防総務課 (Tel56・2126)

団員の努力があるから

日没後、今日も消防団の訓練場に、勇ましい掛け声が響きます。仕事の疲れも見せず訓練に励む消防団員。額に汗しながら重たい機材を持って走ったり、無線で的確に情報を伝えたりするのは、決して簡単なことではないです。

はあ、それ、時に真剣に、時に笑顔で訓練を続けるその姿は、誰が見ても頼もしいと感じることでしょう。

ただ、彼らも最初から今のようになり、頼もしいわけではありません。仕事や家事、育児などで忙しい毎日、それでも何とか時間を作り、団員としての知識や技術を磨き続けてきたからこそ、今の頼もしい姿があるのです。

と努力を積み重ねてきたから。それを決して忘れてはいけません。

誰かのヒーローに

本当に困っていたとき、誰かが手を差し伸べてくれた経験がある方は少なくないはず。あなたの記憶の中にいるその人は「かっこいいヒーロー」として、深く心に刻まれているのではないのでしょうか。

消防団に入れば、あなたもそんな「誰かのヒーロー」に、きっとなれます。



です。できるときに、できる範囲で大丈夫。あなたのその一歩が、まちや大事な人を守る力に、大丈夫を広げる力になっていくのですから。